

## 特集：国際学会参加報告

## Leopoldina Symposium 参加記

松本 拓也（筑波大学 生命環境科学研究科博士後期課程 1年）

2009年9月20日～23日にかけて4日間の日程で、ドイツ・ベルリンにある Free University で行われた Leopoldina Symposium (Molecular Genetics of Chloroplasts and Mitochondria) に参加しましたので紹介します。本シンポジウムは、40の口頭発表、88のポスター発表が行われました。本シンポジウムは、現在、私が研究している、葉緑体ゲノムについての話を聞く良い機会であり、非常に楽しみにしていました。1つの会場で行われた、小規模なシンポジウムではありましたが、オルガネラゲノムの進化、オルガネラゲノムの複製と発現、オルガネラへのタンパク質輸送といった、オルガネラに関する様々な分野における研究の歴史、そして、現在進行中の研究成果が報告されました。ポスターセッションでは、若い研究者の参加が多く、今現在進行中であるトピックが多く報告されていて、とても楽しむことができました。私と同じぐらいの若い大学院生も多く、様々な発表を行っていました。彼らの発表内容や、討論において大きく刺激を受け、良い経験となりました。

今回のポスター発表では、多くの方から質問を受け、英語で説明をする良い機会となりました。私にとって、今回で4回目の国際学会での発表でしたが、まだ十分に英語で説明を行えるとは言えませんでした。しかし、緊張せずに丁寧に説明を行い、自分

が主張したい部分をしっかりと説明することによって、限られた時間のなかで有意義な議論を交わすことができました。様々な方からのアドバイスや、評価をいただけて、とても参考になり、今回の学会に参加して多くのことを得ることができました。参加回数を増すごとに、自分の発表や議論が上達していくことや、英語の学力の進歩を感じることができました。

英語で発表、議論をする時に大切なことは、わからないことを積極的に聞くことだと思います。言葉が通じないからといって、聞く事や、質問を受ける事を恐れるのは、一番もったいないことです。国際学会に参加することは、研究を進めるにあたり、最新の研究を知る大きなチャンスです。また、海外の研究者と出会い、親交を深める良い機会でもあります。国際学会における発表で、自分の言いたい事がうまく言葉に出せずに、辛い経験をするところがあると思いますが、幸いなことに、筑波大学では、英語でポスターを制作し、発表を行う授業が開講されています。学生同士、英語で議論を行うことによって、英語で発表を行う非常に良い予行演習になると思います。若い研究者にとって、国際学会に参加するだけでなく、発表を行うことが英語の上達、研究の幅を広げるとても良いチャンスになると思います。

